

【玉東町】

校務D X計画

【趣旨】

玉東町では、GIGA スクール構想に基づき、令和2年度から ICT 環境の整備を進めてきた。しかしながら、教育現場では業務の複雑化や負担増加といった課題が依然として存在しており、効率的な校務運営が求められている。

これらの課題を解決するため、本町では教職員の働き方改革の一環として、校務のデジタルトランスフォーメーション（DX）を推進し、業務の効率化や負担軽減に向けた具体的な取り組みを進めていく。

1.現状と課題

（１）現状

1人1台端末の導入等に伴い、学校では校務の情報化とともに校内におけるペーパーレス化を意識しながらオンライン会議ツール、アンケート作成ツール等を活用し、職員会議や、学年・学校全体に関する職員同士の情報共有とアンケートを実施している。教育活動においても、オンラインによる校内集会や ICT の活用による授業改善、家庭学習におけるタブレット端末の活用などに取り組んでいる。

（２）課題

「GIGAスクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議」の提言や「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」に基づく自己点検結果（文部科学省 令和5年11月実施）を踏まえ、玉東町における次の課題を明確にした。

これらの課題解決に向けて、各学校と連携を強化しながら、校務DXの推進を図る必要がある。

- ・各学校独自の取組や町内の学校全体での取組を進める中で、FAX利用や押印などデジタル化や省略可を検討する必要がある入力作業等が残存している。
- ・校内におけるサーバー内の情報の保管・整理、クラウドの利活用が十分でなく、生かされていない状況がある。
- ・ネットワーク利用に関する教職員の理解の深化やICT活用スキルの向上、校務の効率化などに関して学校間・教職員間で差がみられる。

2. 今後について

【校務 DX に向けた取組】

1. 保護者及び児童生徒への連絡網整備→他の市町村を参考にクラウド活用の検討
2. デジタルドリル活用促進→活用の障壁調査と打開。AI 化を活用し加速
3. ハイブリッド授業の活用→オンラインによる授業参加環境の維持
4. FAX 利用の廃止・押印廃止→メールやクラウド活用に代替
5. 校務支援システム・クラウドツール・アプリケーションツール等の統一→管内で使用されているシステム等に統一し転勤して来られた教職員の負担軽減を行う
6. 教育ダッシュボード検討→教育の可視化（児童生徒・教職員）・個別最適化
7. 教育情報セキュリティポリシーの改定と周知→改定後、学校へ周知徹底